

令和 7 年度 自己評価表(年度当初)

鳥取県立倉吉総合産業高等学校

中長期 目標	1 誠実な心を育て、たくましく生きる力を養い、個性豊かな人間形成を図る。 2 実践的な学習をととして、創造する喜びを体験するとともに自主・自律の態度を養う。 3 様々な教育活動をととして、他人を思いやり、友情を育み、さらに心身ともに健全な態度を養う。 4 望ましい勤労観・職業観を育て、地域産業を支える人材を育成するとともに地域の発展に貢献する。	今年度の 重点目標	1 心身ともに健やかな生徒の育成 2 生徒の夢や希望が叶えられる学校づくり 3 地域に愛され、信頼される学校づくり 4 専門教育の推進
-----------	--	--------------	--

年 度 当 初					評価結果()月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 心身ともに 健やかな生徒の 育成	基本的生活習慣 の確立とマナー の徹底 【生徒生活部】	・令和6年度「防げる遅刻」については、49回で、前年度（43回）と比べ増加した。 ・学校アンケート（保護者）の『規律・マナー』項目の「1.2」評価は68.4%であり、前年81%に比べると下がった。 ・学校アンケート（生徒）の『挨拶』項目の「1.2」評価は89.7%であった。 ・学校アンケート（生徒）の『学校のきまり』項目の「1.2」評価は92.3%であった。	・年間で「防げる遅刻」を24回以下とする。 ・校内外で明るく気持ちのよい、心のこもった挨拶ができる。 ・学校アンケート（保護者）の『規律・マナー』項目の「1・2」評価の平均を70%以上とする。 ・学校アンケート（生徒）の『挨拶』項目の「1・2」評価の平均を90%以上とする。 ・学校アンケート（生徒）の『学校のきまり』項目の「1・2」評価の平均を90%以上とする。	・年間の「防げる遅刻」の目標を生徒会執行部との協議の上設定し、生徒主体で取り組めるように働きかけをする。 ・教職員で率先して「あいさつ」することを共通認識し、また、授業内での「あいさつ」指導も年度当初の重点目標と位置づけ全教職員で取り組む。 ・朝読書を8時35分にスムーズに始められるよう、5分前の8時30分着席の指導を生徒会執行部と教職員で連携して実施していく。（生徒会執行部からの声かけ運動、あいさつ運動と連携して教職員の教室での声かけ運動を計画） ・生徒の進路実現、自己実現を見据えた中で、生徒が主体的な行動者となるよう、授業、部活動、学科、生徒会執行部と連携し、教職員の共通認識を大切に指導していく。			
	部活動・生徒会活動の奨励 【生徒生活部】	・令和7年度4月時点の部活動等加入率 （1年94% 2年91% 3年80%） ・生徒会執行部の学年別構成 （1年0人 2年2人 3年11人） ・学校生活アンケート結果（R6年度7月→12月） 学校行事に楽しく参加協力できた 96%→96% 部活動に積極的に取り組んでいる 83%→79%	・12月時点で生徒の部活動加入率が95%以上である。 ・執行部へ1.2年生が積極的に参加している。 ・生徒会執行部会およびクラブ運営委員会を定例化するとともに活性化している。 ・生徒自身により主体的に体育祭・学校祭等の生徒会活動を企画運営している。	・部活動未加入者への部活動、執行部・学校祭実行委員会への参加呼びかけをする。 ・LHR等の学年レクリエーションにおいて執行部員を活用する。 ・会議を定例化し、Googleクラスルームの活用を行う。 ・他校の学校祭の見学や執行部との交流の推進をする。			
2 生徒の夢や 希望が叶えられる 学校づくり	進路指導の充実 【進路部】	・就職78名、進学55名（四大4人、短大15名、専門学校36名）の進路希望があり、就職希望者、進学希望者とも、年内に進路が決定した。 ・学校アンケート（生徒）『自分は進路実現をするため、目標に向かって努力している』項目で、「1・2」評価は、85.7%であった。 ・倉吉商工会議所、倉吉市役所と連携して1年生対象の倉吉市企業説明会を実施した。また、3年生就職希望者との面談、進学希望者との面談も実施し、その後の進路指導に活かすことができた。	・就職・進学の支援体制をより一層充実させ、就職希望者の就職内定率100%を達成する。 ・学校アンケート（生徒）『自分は進路実現をするため、目標に向かって努力している』項目で、「1・2」評価が、85%以上となる。 ・鳥取県ふるさとキャリア教育の推進を図るため、地元企業や地元の大学・短大と連携しながら、望ましい勤労観・職業観を育て、地元企業を支える人材育成する。	・進路LHRや進路用クラスルーム、進路室前の掲示板を活用しながら、3年生はもとより、2年生や1年生にもこまめに情報を発信することで、早期から進路意識を高めるとともに、主体的に進路実現に向かう姿勢を育てていく。 ・今年度より高校生向け求人整理システムを活用し、ICT化を進める。 ・倉吉市企業説明会への参加や大学・短大との連携を模索し、地域理解や地域交流の推進に努める。			
	勤労観・職業観の育成（資格・検定の取得やインターンシップ） 【進路部】【教務部】	・インターンシップを予定通り実施し、生徒の職業観や勤労観を養うことができた。 ・各科で試験の情報提供や挑戦することを促す機会を増やしたが、受検者が減少したところもあった。資格取得に向けて計画的な補習を行った。	・インターンシップやビジネス実習を通して、勤労観や職業観を育成するとともに、協働や問題解決能力といった、働き続けるために必要となる力を育成している。 ・生徒が資格取得に向けて意欲的に挑戦して、職業に必要な技術・技能が身についている。	・ある期間だけの取り組みで終わらないように意義や目的を教職員間及び生徒・保護者・受け入れ企業と共有しながら、有意義な活動にしていく。 ・生徒に試験の情報提供（試験内容・職業とのつながりなど）を行う。 ・各科で生徒にチャレンジを促すとともに、計画的な準備を実施する。			
	進路に対応できる学力の定着 【教務部】	・生徒の平日の学習時間は、30分未満および0分の割合が昨年度よりも7.2%減少した。 ・2回行った基礎力診断テストにおいて、D3の人数は、後期が1名多かった。 ・継続して授業の自習が増えないよう努めた。 ・選択科目について、生徒の進路希望にあった履修となるように、担任と生徒・保護者等と連携を図ることができた。	・生徒の学習習慣が定着し、基礎学力の向上が図られている。 ・課題の授業が減り、授業時間が確保されている。 ・生徒の進路希望に応じた科目選択がなされている。	・1、2年が学習支援サービス「Classi」を利用し、学習習慣の定着と基礎学力の向上を図る。 ・事前に教員の不在の情報を共有し、授業の入れ替えや売り買いを積極に行い、課題の授業を減らす。 ・次学年の選択科目の説明を丁寧に行い、学年・教科と連携を取りながら、生徒の進路希望と一致した履修となるように促す。			
	思考力・判断力の向上 【教務部】	・10月に2回目の授業研究会を実施し、ICTを活用した授業展開や生徒への問いかけ方などで新たな気づきがあり、今後の授業に活かせる学びの機会となった。また、校内の研究授業や授業実践の回数は前年度より増えた。	・思考力、判断力を育成するために、課題探究的な学習や対話的な学習活動が実践されている。 ・達成感や自己肯定感を持った生徒が多くいる。	・授業公開や授業研究会を通して、教員が課題探究的な学習や対話的な学習活動を授業に取り入れる手法を共有する。 ・学校行事や科の取り組みなどを通して、生徒が活躍できる機会を増やす。			

評価項目	評価の具体項目	現状		目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
3 地域に愛され、信頼される学校づくり	地域とともにある学校づくり (学校運営協議会) 【管理職】	・委員には学校行事を見学していただき、会においても積極的な意見・助言や感想があった。 ・委員が地域学校協働活動推進員となり、地域活動サポーター発足のコーディネートをし、県外生徒見守り隊として3名を任命して運用を始めた。		・学校運営協議会の委員や地域の方と協働した活動があり、地域に開かれた活気のある学校になっている。	・地域学校協働活動推進員を中心に、地域と協働した活動を計画する。特に地域に生徒の姿が見える取組を増やす。			
	地域への情報発信 (積極的な広報活動) 【総務部】	・R6年度の学校HP閲覧数895,460、記事アップ数168件であった。 ・学校生活アンケート(保護者用)における「積極的に学校の情報提供に努めている」の肯定的回答割合が90.5%。		・ホームページ更新が行われ、学校行事、各科の学習活動、部活動の大会状況が配信されている。	・学校行事について、積極的に総務部から各担当者にホームページやSNSへの掲載を依頼する。また、新聞社やテレビ局などマスコミにも適宜情報を提供する。 ・ホームページがさらに充実するように、更新頻度の少ない学習活動・部活動にも働きかけをする。			
	地域・産業界との交流 【各学科】	M	・地域・産業界との繋がりを求め、待ちの姿勢ではなくこちらから積極的に動くことができた。地域の小学生が来校し、専門科の体験活動も実施した。	HPやチラシ等あらゆる手段を活用しながら、科みずから積極的に働きかけ、地域・産業界との連携・交流のきっかけを作っていく。	課題研究の中で、電気科と共同しイルミネーションの製作やボランティアへの参加を行う。また、小中学校への出前授業等、地域企業や他校種との関りを通して、生徒の協調性やコミュニケーション能力を高めていく。			
			・鳥取県電気工事業工業組合中部支部と連携し、イルミネーションの設置・点灯式・撤去を無事完了することができた。 ・「電気の技術を生かした福祉活動」について、倉吉市社会福祉協議会と連携し、訪問先の要望も事前に伺い準備して実行することができた。 ・課題研究をとおしてボランティアフェスティバルに参加し、おもちゃの病院を開催することができた。地域の方々との交流が図られた。	・地域産業界との共同作業や地域の方々との意見交換を通して、交流が図られている。 ・地域の家庭に出向き、奉仕活動をする事で地域の方との交流が図られている。 ・社会福祉協議会主催のボランティアフェスティバルに参加し、地域の方との交流が図られている。 ・課題研究において、地域の小学校、中学校や他高校との交流が図られている。	・イルミネーション設置について、機械科と共同しアイデア出し合い、新しくオブジェの製作を行う。 ・「電気の技術を生かした福祉活動」の活動前後で民生委員、電業協会、社会福祉協議会、教職員・生徒との意見交換を行い連携をする。 ・ボランティアフェスティバルにおいて社会福祉協議会、機械科と協力しテクニカルボランティアのおもちゃの病院を開催する。 ・課題研究において、小学校や中学校へ出前授業を実施する。また、生活デザイン科と協力し中部地区の高校の車椅子のメンテナンスを行う。			
			・「くらそうや」は4年ぶりに地域イベントに参加し、県内外の多くの方々との交流する機会を得た。 ・12月就業体験学習では事業所の方々に熱心に厳しく指導いただき、生徒の就業意識や態度が育成された。	・課題研究「くらそうや」「くらそうサロン」、「くらそうビジネスセミナー」就業体験学習「ビジネス実習」「インターンシップ」とともに地域の方々、企業の理解を得られ、交流・連携が図られている。	・課題研究「くらそうや」「くらそうサロン」、就業体験学習「ビジネス実習」「インターンシップ」の機会を通して、地域の方々に関わろうとする態度を育成していく。 ・課題研究「くらそうビジネスセミナー」においても地元企業との連携を行う。			
			・生活福祉コースの高齢者との交流が2年生1回・3年生4回、3年生生活福祉コース保育園交流1回、課題研究保育分野による認定こども園交流6回、各学年社会人講師による講習会13回、企業見学1回など、多くの施設・企業等から協力を受け、職業観の育成や専門的知識習得の機会を得ることができた。 ・ボランティアの参加者数は昨年度より増加した。 ・課題研究(食分野)で地域食材を使用した商品を開発、販売。中部ハイスクールフォーラムや鳥取県教育研究大会で発表し、地域とのつながりを深めた。	・認定こども園や高齢者福祉施設での交流や実習、企業見学を実施し、職業観やコミュニケーション技術が育成されている。 ・課題研究(食分野)において、地元企業と連携した商品開発を実施している。 ・多くの生徒がボランティア活動に参加している。	・交流活動や実習では、社会人や職業人としての視点をもちながら取り組めるように、指導を行う。また、実習時期を早めに設定し、何かあった場合、中止ではなく延期して実施できるようにする。 ・実習や交流活動に協力してもらえる地元企業・施設を開拓する。 ・ボランティア活動の意義を伝え、アナウンスを積極的に行う。			

評価項目	評価の具体項目	現状		目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
4 専門教育の推進	専門分野の基本的知識・技術を持ち、チャレンジ精神に富んだ人材の育成 【各学科】	M	・社会人講師の活用は昨年並みに実施することができた。 掲示板の活用についても、少しずつ進んでいる。 ・ジュニアマイスター取得については5名。	・ジュニアマイスター取得者を10名以上とする。 ・三年間で、機械科生徒全員が技能検定を一つ以上取得する。	・資格取得に向けた社会人講師の活用を継続する。 ・企業に習い、有資格者一覧表を実習棟に掲示し、資格取得への意欲を促進する。 ・実習棟入口の掲示板を利用し、資格案内を充実させることで、生徒への情報共有を促す。			
		E	・鳥取県電業協会中部支部に電気工事および電気製図の指導をしていただき、生徒は知識・技術を向上することができた。 ・令和6年度高校生ものづくりコンテスト電気工事部門中国大会に出場することができた。 ・令和6年度高校生ものづくりコンテスト電気工事部門県大会に4名が出場し、来年度の中国大会への出場権を得ることができた。	・生徒の電気工事、電気製図などの知識・技術が向上している。第2種電気工事士の合格率が90%以上である。 ・高校生ものづくりコンテスト中国大会電気工事部門に出場し、入賞している。	・鳥取県電業協会中部支部など地域の専門家技術者に本校へ来ていただき、指導を受ける機会を作り、生徒の知識・技能の向上を図る。 ・地域の電気工事会社を訪問し、工事の様子を見学、技術指導をしていただく機会をつくる。			
		C	・長期休業中に課外学習、検定前の放課後に対策補習を実施しているが、全商各種検定試験において1級3種目合格者が減少傾向にある。 ・クラス内で生徒間に学力差があり、一斉授業での指導に工夫を要する。 ・高度な資格取得に挑戦している生徒がいる。	・資格取得に向けて計画的に努力し、チャレンジ精神を養っている。 ・全商各種検定試験において1級3種目合格を達成した生徒が10人以上いる。	・長期休業中や放課後に課外授業を実施し、学力を育成するとともに、上位級取得目標の生徒への個別支援も行っていく。			
		D	・家庭科技術検定2級以上の申込延べ人数は昨年度より20人増加。上位級挑戦に意欲的であった。 ・課題研究保育分野で県外の大学が主催する絵本コンクールに応募。最優秀賞・入選にそれぞれ1名が選ばれた。 ・ボランティアに意欲的に参加する生徒が増え、ヘルプメイト認定者が久しぶりに3名出た。	・家庭科技術検定に挑戦し、知識と技術の定着とともにチャレンジ精神を育成する。 ・コンテストへの応募やボランティア活動など、外部の活動に参加する。	・各種検定、コンテスト、ボランティア活動への参加について、関係授業などを通して案内し、参加を促す。			
	学科の枠を超えた取組の実践 (総合選択制) 【各学科】	M	・課題研究の中で、電気科と連携して風力発電やセグウェイ、スロープ製作など年間を通じて取り組むことができた。またビジネス科との連携で、焼き印製作をしたり生活デザイン科に来年度から使用するアームカバーを作ったりしていただいた。	・電気科と連携した課題研究への取り組みを通し、科の枠を超えた横断的な学習が行われている。 ・他学科の生徒同士でもものづくりを協同することにより、生産活動全体の姿と自科の役割の理解が深まっている。	・それぞれの専門性を理解し、連携を図りながら取り組みを進めていく。 ・電気科を含めた他科も巻き込みながら、様々な視点で課題研究や授業に取り組んでいく。			
		E	・「くらそうや」との連携で「おもちゃの病院」を行い、8個のおもちゃを預かり、修理することができた。 ・電気工学部や課題研究の取り組みで、「くらそうや」で販売する商品「写真スタンド」を提供することができ、たくさんのお客様に購入していただいた。 ・課題研究において、機械科と共同してボランティアフェスティバルへの参加やセグウェイの作製、風力発電の研究に取り組むことができた。	・「くらそうや」に電気科として「おもちゃの病院」及び「商品提供」ができている。ビジネス科と連携し「くらそうや」の照明のデザインと設置ができている。 ・課題研究において、機械科と共同してものづくりが行えている。	・課題研究において、ビジネス科と連携し「おもちゃの病院」と「くらそうや」の照明のデザインを行う。 ・電気工学部と連携して「商品提供」を行う。 ・課題研究において、機械科と共同してものづくりを行う。			
		C	・機械科より商品開発の協力、電気科と生活デザイン科より「くらそうや」商品を提供していただいた。 ・他科選択「コミュニケーション演習」の選択者が増えた。また、「アプリケーション演習」履修者は全員ワードやエクセルなどの検定取得に挑戦している。	・課題研究「くらそうや」がアンテナショップとして、本校の紹介や情報発信の場となっている。 ・他科の生徒もビジネスコミュニケーションの知識や技能を習得し、学校生活で実践している。	・課題研究「くらそうや」にて、消費者と積極的にコミュニケーションをとり、商品に関する感想や意見を丁寧に聴き取り、商品提供学科にフィードバックし製品作りに活かしてもらう。 ・総合選択制の他科選択「コミュニケーション演習」「アプリケーション演習」の魅力を伝え、履修を促す。			
		D	・「くらそうや」へ提供した商品は新企画が好評だった。 ・機械科から実習で使用するアームカバー製作の依頼を受け、課題研究の被服分野で10組製作した。	・くらそうやへ商品を提供する。 ・工業科とも連携する。	・くらそうやへの商品提供は、昨年度の売れ行きを振り返り、よりよい商品の企画を行うよう、指導する。 ・情報交換を行い、他学科との連携を検討する。			
5 業務改善の取組	長時間の時間外勤務者の解消 【管理職】	・多様化する勤務形態や働き方に対応できるよう、衛生委員会での具体的提案をもとに職場全体で支え合う体制を作っている。 ・時間外業務時間が年間360時間を超えた教職員は、9人であった。		・職場全体にチームで仕事を分担する意識が浸透し、教職員で協力しながら業務遂行している。 ・年間の時間外業務時間が360時間を超える教職員が0人。	・衛生委員会で職場の安全衛生管理について情報共有し、適切に業務遂行できるよう働きかけをする。 ・業務の効率化を図るとともに、職場で支えあえる環境作りを促進する。			

A [90%以上] B [89～70%] C [69～50%] D [49～30%] E [29%以下]